

フォト句会 2025年4月度報告

開催日：4月8日(火)

時 間：15時30分～17時30分

出席者：7名

写真出題：新田

付け句 「夜の公園の電話ボックス（出題：新田）」



付け句「夜の公園の電話ボックス」：出題：新田

1位)テレカ手に昭和は遠し長電話 新田 由紀子

テレフォンカードの残額を気にしながら電話した頃が懐かしい。

2位)このベンチいつもここには貴方の影 矢澤 正二

公園で一緒に過ごしたあの頃の記憶がよみがえる。

3位)

誰もいないのにベルが鳴る恐怖

中村 晃也

東京は眠らぬ街よお母さん

長尾 進一郎

硬貨持ちふるさとの声聞きに来る

松田 昌康

午前0時約束のときすでに過ぎ

矢澤 正二

三陸のボックス死者と話す場所

松田 昌康

怪しげな電話ボックス覗き込む

清水 勝

自由題



大樗 生命力に神宿る

(勝)

モデル料代わりに
何か食料を（昌康）



キタキツネ

春寒や電飾和む
首都の夕（晃二）





岩肌に残雪の見ゆ
裏妙義（晃也）

抜かれずに

よくぞここまで

頑張った(正二)



自由題 寸評

- 1) 大櫓 生命力に神宿る 清水 勝
大木の空洞に神を祭った不思議な空間。
- 2) モデル料代わりに何か食料を 松田昌康
キタキツネと対話を交わした貴重な瞬間。
- 3) 春寒や電飾和む首都の夕 安藤 晃二
高層ビルのライティングをシャープに捉えた。
- 4) 岩肌に残雪の見ゆ裏妙義 中村 晃也
青空をバックにそそり立つ山の迫力を表現。
- 5) 抜かれずによくぞここまで頑張った 矢澤正二
なぜか一株だけ残された作物の存在感。